

NACSIS-CAT/ILL

ニュースレター

Contents

1. 年末年始の目録所在情報サービス	2
2. Windows Vista 等におけるクライアント利用上の御注意 (JIS 漢字第 3, 第 4 水準の入力環境)	2
(書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト)	
3. 「NACSIS-CAT レコード調整方式検討ワーキング・ グループ報告書」で提案された応急策の実施について (2)	3
4. 全国雑誌所蔵データ更新作業の終了について	4
5. 平成 17 年度 NACSIS-CAT/ILL 業務分析表の送付	4
(NACSIS-CAT)	
6. 平成 18 年度第 2 回レコード調整の送付	5
7. 参照ファイルデータ整備のお知らせ	5
8. RLG 参照ファイルの状況と今後	5
(NACSIS-ILL)	
9. ILL システムの国立国会図書館依頼機能の運用中止	6
10. KERIS との ILL システム間リンクの運用開始	7
11. ILL 文献複写等料金相殺サービス個別データ項目追加について	8
12. ILL 文献複写等料金相殺サービス処理報告 (平成 18 年度第 2 四半期)	8
(その他)	
13. 第 72 回国際図書館連盟ソウル大会 (平成 18 年 8 月 20 日～24 日) 出展報告	9
14. Webcat および Webcat Plus のサービスに関するアンケート集計結果	9
15. 平成 18 年度総合目録データベース実務研修実施報告	10
16. 会議開催報告 (平成 18 年 8 月～平成 18 年 10 月)	11
17. お詫びと訂正	12
(付録)	
・コーディングマニュアル (第 2 章 和図書書誌レコード 2.2.7 NOTE)	
・コーディングマニュアル (第 4 章 和図書書誌レコード 4.2.7 NOTE)	
・コーディングマニュアル (第 21 章 図書書誌レコード修正)	



大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立情報学研究所

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号
コンテンツ課

目録情報管理係 …… Tel:03-4212-2310 Fax:03-4212-2375

学術情報サービス係 …… Tel:03-4212-2320 Fax: 同上

学術情報形成第二係 …… Tel:03-4212-2350 Fax:03-4212-2370

企画調整課

システム管理係 …… Tel:03-4212-2220 Fax:03-4212-2230

研修係 …… Tel:03-4212-2175 Fax: 同上

URL:<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/>

年末年始の目録所在情報サービス

年末年始のサービスは、次のとおりです。

年末 平成 18 年 12 月 27 日 (水) 20 時まで
年始 平成 19 年 1 月 5 日 (金) 9 時から

(目録情報管理係)

Windows Vista 等におけるクライアント利用上の御注意 (JIS 漢字第 3, 第 4 水準の入力環境)

NACSIS-CAT/ILL 業務に使用する端末において、OS (Windows Vista, Mac OS X 等) やクライアントシステム等の環境によって、NACSIS-CAT/ILL に未対応の文字が入力される場合があります。

NACSIS-CAT/ILL の JIS 対応クライアント (指定文字セット : JIS7 または ISO-2022-JP) で登録できる漢字は、JIS 規格 (JIS X 0208:1997) による第 1 水準, 第 2 水準の文字です。

Windows Vista, Mac OS X については、最新の JIS 規格 (JIS X 0213:2004) にも対応し、標準入力文字 (漢字変換候補) として第 3, 第 4 水準の文字が追加されています。

主に JIS 対応クライアントの場合は、以下のようなケースなどで、対応文字の不一致により入力時の文字と登録結果が異なる恐れがあります。

影響範囲については、UCS 対応クライアントも含めて現在調査しており、確定しだいあらためてお知らせします。

Windows Vista 等、最新の JIS 規格に対応した環境においては、入力漢字について御留意くださるようお願いいたします。

(対応文字不一致の例 : Windows OS)

(1) 既存の Windows XP などとは文字の字形が一部変更となります。(JIS 第 1, 第 2 水準の 168 文字)

(例) XP 上の表示 : 辻 「U+8FBB」

 Vista 上の表示 : 辻 「U+8FBB」

(2) JIS 第 3, 第 4 水準の文字 4,354 文字 が標準入力できるようになり、一部 (303 文字) は 4 バイト文字 (サロゲート領域の文字) となります。

NOTE: 第 x 刷では表紙のタイトルの誤植修正済, ほか

(目録情報管理係)

全国雑誌所蔵データ更新作業の終了について

本誌 17 号でお知らせした「全国雑誌所蔵データ更新作業」について、平成 18 年 9 月末までのべ 1,368 館の参加館に作業実施していただきました。

本作業の結果、平成 17 年 4 月時点で約 30 万件だった未更新所蔵レコード数は、平成 18 年 10 月現在で約 17 万件に減少しました。

今後も、全国雑誌所蔵データ更新作業として NII から御案内する予定ですが、各参加館でも年間を通じ、雑誌の所蔵データ更新を適宜行ってください。なお、B フォーマット電子データ送付による更新も随時受け付けています。また、雑誌所蔵更新用 WebUIP も通年で利用可能です。

(目録情報管理係)

平成 17 年度 NACSIS-CAT/ILL 業務分析表の送付

平成 18 年 12 月に、NACSIS-CAT/ILL 参加図書館(機関単位)に「平成 17 年度 NACSIS-CAT/ILL 業務分析表」を送付する予定です。詳しくは、以下の URL にてお知らせします。今後も毎年度引き続き送付する予定です。

URL : http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/ncat_info_bunseki2006.html

(目録情報管理係)

平成 18 年度第 2 回レコード調整の送付

平成 18 年度第 2 回レコード調整連絡を、関係各館に送付する予定です。
到着後は、内容を確認の上、すみやかに処理くださるようお願いします。
送付の際には、NACSIS-CAT/ILL のホームページ上でお知らせします。

- ・ NACSIS-CAT/ILL : 国立情報学研究所目録所在情報サービスホームページ
URL : <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/home.html>

(目録情報管理係)

参照ファイルデータ整備のお知らせ

平成 18 年 11 月に、以下の参照ファイルデータの整備を行いました。

- 参照ファイル名 : USMARC
【作業件数】 USMARC : 26,947 件
 USMARCS : 45,989 件
【作業内容】 USMARC の電子資料レコードのうち、GMD コード値が誤って「c (音楽資料)」となっていたものに対し、GMD コード値を「w (機械可読資料)」に修正

(目録情報管理係)

RLG 参照ファイルの状況と今後

周知のとおり、米国 RLG は、2006 年 7 月に米国 OCLC と組織統合しました。

また、業務統合の一環として、RLG の目録データベース (RLG Union Catalog: Bibliographic files) も OCLC WorldCat とのデータ統合が進められており、一定規模のデータ統合が完了した
い RLG としてのサービスは終了する模様です。

NACSIS-CAT では、平成 14 年 6 月から目録システム間リンクにより RLG の目録データベースを参照ファイルとして実装しました。今後、RLG の参照ファイルは実装できなくなる見込みで

すが、詳細については時期等が確定しだいお知らせします。

(参考：平成 18 年 12 月 12 日時点)

- ・ OCLC サイト

URL : <http://www.oclc.org/community/rlg/transitions/default.htm>

- ・ RLG サイト

URL : http://www.rlg.org/en/page.php?Page_ID=20966

(目録情報管理係)

ILL システムの国立国会図書館依頼機能の運用中止

NACSIS-ILL からの国立国会図書館（以下 NDL という）への依頼機能は、平成 8 年 4 月 7 日に開始し、年間 2 万件以上の依頼が処理されてきましたが、この NDL への依頼機能を、平成 19 年 3 月 31 日（土）で中止し、平成 19 年 4 月 2 日（月）以降、NDL への新規依頼は、NDL-OPAC（国立国会図書館 蔵書検索・申込システム）を御利用いただくことになりました。

本件については、NDL におけるシステム環境の変更に伴い、NDL から提案があり、NII や国公私立大学図書館協力委員会等と協議の上、決定されました。NACSIS-ILL 参加館宛には、平成 18 年 11 月 7 日付けで NDL と NII 連名の通知文書を発送しています。

なお、平成 19 年 3 月 31 日（土）の業務終了（18:00）までに依頼したデータについては、平成 19 年 5 月 31 日（木）まで NACSIS-ILL システムにて処理することが可能です。残レコードの処理に特化した手順書を Web 上にて公開予定です。

現在 NDL から NACSIS-ILL 参加館に対して付与されている ID が、参加組織ファイルの国立国会図書館利用者 ID(NDLID)にセットされていますが、平成 18 年 12 月末で新規参加館への付与が終了します。NDLID のない参加館は、NACSIS-ILL システムから NDL への依頼をすることができませんので、平成 19 年 1 月以降の新規参加館は、NDL-OPAC にて NDL へ依頼してください。

NDL-OPAC でのお申込み方法等、詳しくは以下 URL を御参照ください。

- ・ NDL-OPAC（国立国会図書館 蔵書検索・申込システム）

URL : <http://opac.ndl.go.jp/>

- ・ NDL-OPAC による文献提供依頼について（ID・パスワードの取得申請手続等）

URL : http://www.ndl.go.jp/jp/library/library_ndlillnews.html

(学術情報サービス係)

KERIS との ILL システム間リンクの運用開始

NII では、国立大学図書館協会の GIF(Global ILL Framework)プロジェクトとの連携により、米国 OCLC との ILL システム間リンク、韓国 KERIS (韓国教育學術情報院: Korea Education & Research Information Service) との ILL/DD 暫定サービスを実施しています。

GIF・KERIS・NII の 3 者は ILL システム間リンクについて、運用面の検討、システム開発、テストを進めて参りましたが、平成 19 年 4 月 2 日 (月) より、NACSIS-ILL と KERIS の ILL システムを接続して、正式運用することとなりました。

ILL システム間リンクは、ISO (国際標準化機構) の国際規格となっている ILL プロトコルを使用するものです。

日韓 ILL/DD 暫定サービスと正式サービスの違いは次のとおりです。

- (1) エージェント方式から ILL システム間リンクへの変更
- (2) システムの変更に伴う、操作手順の変更

サービスの対象が「複写のみ」であること、料金決済を「ILL 文献複写等料金相殺サービス」で行なうこと、は変更されません。

操作マニュアルは、正式運用時まで、Web 上で公開し、冊子体も配布する予定です。

なお、平成 19 年 3 月 31 日 (土) までにエージェント方式で依頼・受付したデータについては、引き続き NACSIS-ILL にて処理することが可能ですが、平成 19 年 4 月 30 日 (月) までに最終状態に遷移していただきますようお願いいたします。

日韓 ILL/DD 暫定サービス参加館で、正式運用時に、図書館システムが ISO ILL プロトコルに対応していない場合は、WebUIP (ISO ILL プロトコル対応) を御利用いただくことが可能です。WebUIP は、NII が開発した Web ベースの CAT/ILL クライアントです。WebUIP の利用を希望する場合は、學術情報サービス係まで、メールにて、「①機関名、②参加組織番号、③利用開始希望日、④利用予定端末台数、⑤ISO ILL 対応クライアント導入予定年度、⑥担当者及び連絡先」を御連絡ください。

新規参加方法等グローバル ILL についての詳細は、以下の URL をご欄ください。

- ・グローバル ILL (ILL システム間リンクのページ)

URL : http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill_info_globalil.html

(學術情報サービス係)

ILL 文献複写等料金相殺サービス個別データ項目追加について

平成19年4月のグローバル ILL 日韓 ILL/DD サービス正式運用開始に伴い、ILL 文献複写等料金相殺サービスの個別データの明細データに以下の項目を追加します。

	項目名称	桁数	属性	CATP フィールド名
19	APDU 識別グループ ID	25	VARCHAR	ISOGID

APDU 識別グループ ID には日本側参加館が受付の場合、KERIS のレコード ID がセットされます。この項目追加により、KERIS 側にて韓国内の料金決済が可能となります。

項目追加は、平成19年4月分の明細データからです。明細データフォーマットについては、以下の URL を御覧ください。

- ・ ILL 料金相殺システム提供データフォーマット

URL : http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill_info_sousai_data_format.html

(学術情報サービス係)

ILL 文献複写等料金相殺サービス処理報告 (平成18年度第2四半期)

ILL 文献複写等料金相殺サービスの処理状況は、以下のとおりです。

平成18年度第2四半期 (平成18年7月～9月)

- ・ 利用機関数 : 668 (※ 債務、債権ともに発生しなかった機関は3機関)
- ・ 処理対象 ILL レコード件数 : 249,823 (NACSIS-ILL 総レコード件数 : 287,626)

		対債務機関	対債権機関
機関数		408	257
NII の請求額/支払額		25,564,215	▲25,486,589
内訳	相殺金額	25,536,885	▲25,536,885
	運営費 (税込)	28,350	4,725
	前期債権繰越額	▲1,020	▲680
	振込手数料	---	42,180
	次期繰越分	---	4,071

(学術情報サービス係)

第72回国際図書館連盟ソウル大会 (平成18年8月20日～24日) 出展報告

国際図書館連盟 (IFLA) の第72回年次大会 (正式名称: World Library and Information Congress: 72nd IFLA General Conference and Council) が, 平成18年8月20日～24日に隣国の韓国ソウルで開催されました。大会全体で, 1日登録者, 展示関係者等を加え約5,000人 (日本人は約200名) の参加がありました。

NIIの展示ブースでは機関リポジトリ, GeNii/CiNii, NACSIS-CAT/ILLについてのデモンストラーションと説明を行い, 約900名の方に御来訪いただきました。



(学術情報サービス係)

Webcat および Webcat Plus のサービスに関するアンケート集計結果

GeNii ユーザビリティ調査の一環として, 平成18年7月～8月に実施した Webcat および Webcat Plus のサービスに関するアンケートの集計結果を以下の URL で公開しました。

URL : http://webcatplus.nii.ac.jp/enquote_result.html

なお, このアンケートにはのべ695名の利用者の方に御回答をお寄せいただきました。御協力ありがとうございました。

(目録情報管理係)

平成 18 年度総合目録データベース実務研修実施報告

平成 18 年度総合目録データベース実務研修を 9 月 25 日（月）～10 月 6 日（金）に実施し、16 名の研修員が課程を修了されました。この研修は、目録所在情報サービス参加機関において中核的な役割を担う人材の養成を目的としています。

研修員の方々は、2 週間にわたる期間中、目録所在情報サービスに関連する講義・演習の受講や、他機関の見学、グループごとの共同演習・発表等を行いました。目録関連の講義では、立命館大学や東京大学、目録業務請負民間業者講師の実務に即した取組事例の報告等もあり、研修員からも「普段聞く機会のない内容で非常に参考になる」との声があがっていました。また、共同演習の発表では、聴講した NII 職員も含めて活発な質疑応答が行われたほか、目録システム講習会を想定した模擬講義や、プレゼンテーション実習等にも取り組みました。

研修のカリキュラムや研修員成果物等は次の URL で公開しています。

URL : <http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/db/index.html>

平成 18 年度総合目録データベース実務研修 修了者 (16 名) *敬称略	
井川 友利子	宮崎大学
上山 朋子	愛媛大学
蝦原 加奈子	東京大学
大綱 浩一	京都大学
川窪 知子	名古屋大学
菅野 朋子	一橋大学
竹下 啓行	岡山大学
土居 純子	同志社大学
尾藤 泰代	名古屋工業大学
藤田 直美	京都教育大学
松本 千恵	関西学院大学
宮里 昌代	鹿児島大学
八幡 圭子	大阪教育大学
和田 由季	広島大学
渡邊 伸彦	京都大学
渡邊 由紀	東京大学



(研修係)

会議開催報告（平成18年8月～平成18年10月）

第2回 視聴覚資料の取扱いに関する検討会議

【日時】 平成18年8月21日（月）13:30-18:00

【場所】 国立情報学研究所 19階プレゼンテーション室

【議事】

1. 前回議事要旨（案）確認
2. 取扱いおよびコーディングマニュアルの構成について
3. 取扱いおよびコーディングマニュアルの内容について
4. その他

第3回 視聴覚資料の取扱いに関する検討会議

【日時】 平成18年9月21日（木）14:00-18:30

平成18年9月22日（金）10:00-14:30

【場所】 国立情報学研究所 20階ミーティングルーム2

【議事】

1. 前回議事要旨（案）確認
2. 国立国会図書館の日本目録規則適用細則について
3. 取扱いおよびコーディングマニュアルの内容について
4. 今後のスケジュールについて
5. その他

第4回 視聴覚資料の取扱いに関する検討会議

【日時】 平成18年10月19日（木）13:30-21:40

【場所】 国立情報学研究所 19階プレゼンテーション室

【議事】

1. 前回議事要旨（案）確認
2. 取扱い（案）およびコーディングマニュアル（案）について
3. 複合媒体資料について
4. 既存書誌の修正方針について
5. その他

（目録情報管理係）

お詫びと訂正

本誌 17号で、以下の誤りがありました。お詫びとともに訂正させていただきます。

	(誤)	(正)
p.7 (委員名簿)	松田泰代 国際日本文化研究センター資料課 目録情報係	松田泰代 国際日本文化研究センター資料課 目録情報係長

(目録情報管理係)

2. 2. 7 NOTE

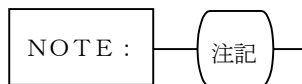
2. 2. 7 A [形式]

NOTE	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
注記	選択*	可変長	1024バイト	16

*次の注記の入力レベルは「必須2」である。

- ・資料の特性に関する事項（ただし、コンピュータ・ファイルについては、当面、入力レベル「選択」）
- ・書誌レコードの分割に関する注記

2. 2. 7 B [記述文法]



2. 2. 7 C [NCR 87 Rの区切り記号の採否]

1.7.0.2（区切り記号法）の採否については次のとおりとする。

- ア) 一つのデータ要素ごとにフィールドを繰り返して記録するので、区切り記号は用いない。ただし、一つのNOTEフィールド中に複数のデータ要素を記録する必要がある場合は、この区切り記号法を採用する。
- イ) は採用する。

2. 2. 7 D [フィールド内容とデータ要素]

NOTEフィールドには、目録対象資料に関する注記をデータ要素として記録する。

記録されるデータ要素には次のものがある。

- ア) 他のどのフィールドにも記録できないが、記録しておくことが望ましいと目録作成機関が判断した事項
- イ) 他のフィールドに記録した事項で、さらに補足・説明を加えることが望ましいと目録作成機関が判断した事項

ただし、ある特定の機関のみが所蔵している資料に対応した固有の事項、コピーレベルでの事項については、このフィールドに記録してはならない。必要ならば、所蔵レコードのCPYNTフィールドやLDFフィールドに記録する。

2. 2. 7 E [データ要素の情報源]

どこからでもよい。

2. 2. 7 F [データ記入及び記入例]

F 1

NOTEフィールドに記録する注記は、導入語句を伴う定型注記と、それ以外の注記とがある。定型注記の場合、導入語句と注記との間には、「: △」(コロン、スペース)を置く。

TR:辞林 21 / 三省堂編修所編 || ジリ 21

NOTE:監修: 松村明, 佐和隆光, 養老孟司

F 2

NOTEフィールドに記録する注記は、本システムに特有なものと、NCR 8 7 Rで示されたものがある。複数の注記がある場合は、本システム特有の注記を、NOTEフィールドの冒頭に記録する。次いでそれ以外の注記を、それらが関連するNCR 8 7 Rに示される書誌的事項の順序に従って記録する。なお、本システム特有の注記が複数ある場合はF 2. 1で示されている順序に従う。

F 2. 1

本システム特有の注記としては次に示すものがある。このうち、イ) 書誌レコードの分割に関する注記の入力レベルは「必須2」の扱いとする。

ア) 資料の特性に関する事項

以下については、NCR 8 7 Rの該当する章の章だての語句を導入語句として記録する。

- (1) 第4章地図資料の「4. 3 数値データに関する事項」
「地図資料: △」を導入語句として冒頭に付して記録する。
- (2) 第5章楽譜の「5. 3 楽譜の種類に関する事項」
「楽譜: △」を導入語句として冒頭に付して記録する。
- (3) 第9章コンピュータ・ファイルの「9. 3 ファイルの特性に関する事項」
「コンピュータ・ファイル: △」を導入語句として冒頭に付して記録する。
- (4) 第10章博物資料の「10. 3 数値データに関する事項」
「博物資料: △」を導入語句として冒頭に付して記録する。

イ) 書誌レコードの分割に関する注記

書誌レコードを分割した場合、分割に関する事項を注記する。

注記する内容は、以下のとおりである。

- (1) 分割した巻次・部編の範囲
- (2) 分割先のレコードID

追加

F 2. 1 (続)

TR: 刑事判例評釈集/刑事判例研究会編 || ケイジ ハンレイ ヒョウシヤクシュ
 NOTE: 31 巻以降は別書誌<BN08494271>

追加

ウ) 中位の集合書誌単位に対応する版表示

エ) 複数の出版物理単位からなる書誌レコードの責任表示, 出版者の変更に関する注記

TR: 法の理論 / 原秀男 [ほか] 編 || 抄ノリロン
 NOTE: 5 以降の編者: 杵・ヨシハル, 三島淑臣

オ) 記述の基盤についての注記

(1) 最初に刊行された資料以外の出版物理単位 (巻・冊) によって書誌レコードを作成した場合, 記述の基盤とした巻・冊について注記する。

NOTE: 記述は第 3 巻による

(2) 初刷以外によって書誌レコードを作成した場合, 記述の基盤とした刷について必要に応じて注記する。

NOTE: 記述は第 2 刷 (2000. 3) による

ただし, 初刷に基づいて書誌レコードを修正したとき, または基盤とした刷が初刷と同一であると確認できたときは削除する。

カ) 類似書誌レコードとの相違に関する注記

NOTE: 出版者の相違による別書誌あり
 NOTE: 装丁と出版日付の相違による別書誌あり
 NOTE: ページ数の相違による別書誌あり
 NOTE: 大きさの相違による別書誌あり
 NOTE: シリーズの有無の相違による別書誌あり
 NOTE: シリーズの相違による別書誌あり

キ) 同一書誌レコードとして扱う資料間に見られる相違に関する注記

(1) 初刷のバリエーション

NOTE: 奥付の出版日付が異なるものあり: 1975. 3

追加

F 2. 1 (続)

(2) 初刷以外の資料による情報

NOTE: 第4刷では表紙タイトルの誤植修正済

NOTE: 第5刷では標題紙の責任表示の誤植修正済

NOTE: 第2刷の奥付に記載されている初版第1刷の出版日付: 1989.12

NOTE: 第12刷(以降)の出版社(名称変更): 河出書房新社

NOTE: 第8刷のページ数: vii, 522p

追加

F 2. 2

NCR 8 7 Rで示されているもののうち、次に示す項目は別の取扱いをする。

ア) 2.7.3.1 (タイトルに関する注記)

ア) の後半の「記録しなかった他のタイトル」については、VTフィールドの適切なコードを付してそれを記録する。なお、「OH」を付して記録した場合は、情報源は必ず注記する。

ウ) は、VTフィールドに原書名コードORを付して記録する。

イ) 2.7.3.7 (内容に関する注記)

ア) 内容細目は、CWフィールドに記録する。

2. 2. 7 G [フィールドの繰り返し]

本マニュアル及びNCR 8 7 Rに定める注記(の種類)ごとにNOTEフィールドを繰り返して記録する。ただし、フィールドの繰り返し制限を超えてしまう場合は、同種の注記をグループ化し、一つのNOTEフィールドの中に記録することができる。

〔関連項目〕

2. 1. 11 VOL

2. 2. 1 TR

2. 2. 5 VT

2. 2. 6 CW

4. 2. 7 NOTE

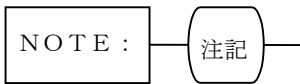
4. 2. 7 A [形式]

NOTE	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
注記	選択*	可変長	1024 バイト	16

*次の注記の入力レベルは「必須2」である。

- ・ AACR 2 の第 3 章地図資料の「3. 3 数値データエリア」
- ・ 書誌レコードの分割に関する注記
- ・ 記述の基盤についての注記

4. 2. 7 B [記述文法]



4. 2. 7 C [AACR 2 の区切り記号の採否]

AACR 2 の 1. 7 A 1 (区切り記号法) 及び 2. 7 A 1 (区切り記号法) の採否については次のとおりとする。

1 つの注記ごとにフィールドを繰り返して記録するのが基本とするため、区切り記号は用いない。

ただし、1 つの NOTE フィールド中に複数の注記を記録する必要がある場合は、この区切り記号法を採用する。

4. 2. 7 D [フィールド内容とデータ要素]

NOTE フィールドには、目録対象資料に関する注記をデータ要素として記録する。

記録されるデータ要素には次のものがある。

- ア) 他のどのフィールドにも記録できないが、記録しておくことが望ましいと目録作成機関が判断した事項
- イ) 他のフィールドに記録した事項で、更に補足・説明を加えることが望ましいと目録作成機関が判断した事項

ただし、ある特定の機関のみが所蔵している資料に固有の事項、特定の刷に固有の事項については、このフィールドに記録してはならない。必要に応じて、所蔵レコードの CPYNT フィールドや LDF フィールドに記録する。

4. 2. 7 E [データ要素の情報源]

どこからでもよい。

4. 2. 7 F [データ記入及び記入例]

F 1

NOTEフィールドに記録する注記には、導入語句を伴う定型注記と、それ以外の注記とがある。定型注記の場合は、導入語句と注記との間には、コロン、スペース (: △) を置く。

TR:Scott Fitzgerald : a biography / Jeffrey Meyers

NOTE:Bibliography: p. [389]-393

F 2

NOTEフィールドに記録する注記には、本システムに特有なものと、AACR2で示されたものがある。複数の注記を記録する場合は、本システム特有の注記を最初のNOTEフィールドに記録する。それ以外の注記は、その後に、関連するAACR2の1. 7 B(注記)に示される順序に従い記録する。ただし、ある特定の注記を最重要であると決めて、それを最初に記録してもよい。なお、本システム特有の注記が複数ある場合は、F 2. 1で示されている順序に従う。

F 2. 1

本システム特有の注記としては次に示すものがある。ア) ~ウ) の入力レベルは、「必須2」の扱いとする。

ア) AACR2の第3章地図資料の「3. 3 数値データエリア」

導入語句を付さずに記録する。

NOTE:Scale 1:25,000

イ) 書誌レコードの分割に関する注記

VOLフィールドの繰り返しが多数のため書誌レコードを分割した場合、分割に関する事項を注記する。

注記する内容は、次のとおりである。

(1) 分割した巻次・部編の範囲

(2) 分割先のレコードID

TR:West's Federal reporter : third series

NOTE:v. 61-90 は別書誌<BA26749419>

NOTE:v. 346 以降は別書誌<BA66398444>

追加

第 2 1 章 図書書誌レコード修正

この章では、図書書誌ファイルに登録されたすべての書誌レコードについて、レコード修正の方法及び判断基準を示す。

ここでは、和図書／洋図書、子書誌／親書誌レコードのすべてを含む。

〔通則〕

図書書誌ファイルに登録されたすべての書誌レコードは、当該書誌レコードがセンターで定めた基準や、目録規則などに照らして誤りであると判断されない限り、原則として最初に作成された書誌レコードを維持する。

逆に、センターで定めた基準や、目録規則に照らして誤りであることが明らかである場合は、当該書誌レコードの修正を行う必要がある。

また、修正はデータが正確かつ豊富になる方向で行う。

21.0 図書書誌レコード修正指針

21.0A【修正の範囲】

A1

次の場合には、修正を行う必要がある。

- 1) データに明らかな誤りがある
- 2) データが基準や目録規則と合致しない
(図書書誌レコードの作成単位を含む)

A2

次のような場合には修正を行うことが望ましい。

- 3) 入力レベルが「選択」である項目に対するデータの記入・追加
- 4) 入力レベルが「必須」であるフィールドで、複数のデータが存在し得るときの2番目以降のデータの記入・追加

A3

データが未記入であるときの記入・追加については、改めて書誌の同定を行う必要がある。

A4

上記に定めるもの以外の修正は行ってはならない。

(例) 自館の都合によるデータの削除

21.0B【修正作業の区分】

B1

修正の内容・程度によって作業の流れを次の2通りに分ける。

- (a) 修正項目を発見した館(以下、「発見館」という)が慎重に検討の上、独自に修正を行うことが可能なもの
- (b) 発見館が当該書誌レコードを作成した館(以下、「作成館」という)と連絡・協議をする必要があるもの

B2

特に次の事項に関わる修正については、発見館は必ず作成館と連絡・協議をする必要がある。

- 1) 書誌構造に変更を及ぼすようなレコードの修正
- 2) 資料本体の内容的な改訂・変更を示すような情報の修正
- 3) その他別途書誌を作成するかどうかの根拠となるような情報の修正

21.0C【修正時の基本的対応】

C1

修正の必要が生じた場合、その発見館は修正の程度に応じた対応をとる。
それぞれの対応は次のようにする。

(a) 発見館が慎重に検討の上、独自に修正を行うことが可能なもの

発見館は修正の内容を慎重に検討した上で、当該書誌レコードを独自に修正することができる。

(b) 発見館が作成館と連絡・協議をする必要があるもの

発見館は、必ず作成館と連絡をとり、確認又は協議をする必要がある。確認又は協議の結果、作成館が修正に同意した場合は、原則として作成館が当該書誌レコードの修正を行う。

ただし、双方が同意すれば発見館が修正を行うことができる。

なお、協議の結果、修正を行わない場合もある。また、協議がうまくいかず、作成館の修正同意が得られなかったときには、原則として既存の書誌レコードを維持する。

C2

修正の内容によっては、その他の所蔵館に対してその内容を連絡する必要がある場合と、ない場合とがある。どのような修正のときに他の所蔵館に連絡するかは次の修正事項一覧を参照すること。

ただし、修正館が他の所蔵館に連絡することが望ましいと判断した場合はこの限りではない。

C3

修正館が所蔵館に連絡するとき、その館が多数であり、対応が困難であるような場合はセンターに連絡作業を依頼することができる。~~センターに依頼するかどうかは5館程度を目安に判断する。~~

削除

21.0D【修正時の例外的対応】

D1

発見館が作成館と連絡・協議をする必要があるもので、作成館では原資料の確認ができない等のときには、発見館は作成館と合意の上で、修正を行うことができる。

D2

RECONファイルから取り込まれた書誌レコードに修正すべき事項を発見した場合、発見館は本章で定める規定とはかかわりなく、現物を基に慎重に修正を行う。

なお、RECONファイルから取り込まれた書誌レコードには、CRTDTに作成日付以外の数字が埋め込まれている。

D3

作成館が判明しない場合は、当該資料の所蔵館のうち、所蔵IDの最も小さい館を作成館とみなす。

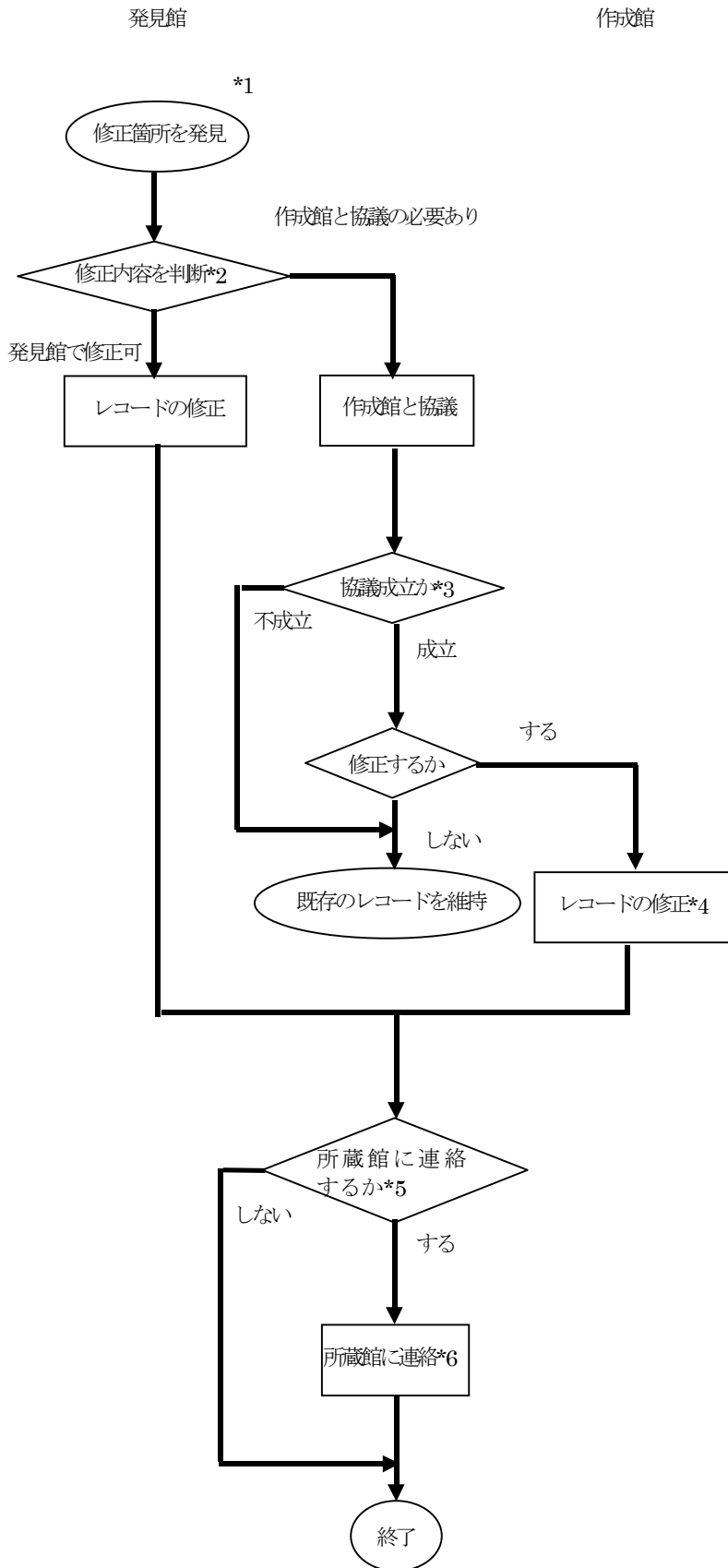
21.0D【修正時の例外的対応】（続）

D4

必要に応じて作成館以外の所蔵館と、修正について連絡・協議をしてもよい。

（例）RECONファイルからEDITして作成・登録された書誌レコード

21.0E [修正作業流れ図]



*1 修正作業を行う前に、必ず書誌レコードと目録対象資料との同定をする必要がある

*2 実際の判断は修正事項一覧の表を基に行う

*3 不成立の場合は原則として既存のレコードを維持するが、調整を希望する場合はセンターに依頼することができる

*4 合意の上で発見館が修正することができる

*5 実際の判断は修正事項一覧の表を基に行う

*6 連絡すべき館が多数のときはセンターに依頼することができる

削除

21.0 F [注意事項]

F 1

各参加館の間で修正処理が終了する限りにおいては、センターに連絡する必要はない。しかし次のような場合は、センターに連絡する必要がある。

- 1) 修正の結果、重複書誌が発生してしまった場合
- 2) 本章では規定されていないような、何らかの修正にかかる事項が発生した場合

F 2

発見館と作成館との間での協議が不調に終わった場合は、原則として当該書誌レコードは現状のまま維持するものとする。ただし特に調整が必要な場合は、センターに対して調整を依頼することができる。

F 3

基準や目録規則の解釈が目録担当者間で別れるような場合は、原則として修正は行わない。もし何らかの修正が必要ではないかと考えられる場合は、センターに連絡する。

F 4

作成館が関与しなかった修正について、何らかの問題があることを発見したときには、その発見館は、それが作成館との協議対象となるような内容であるときには、作成館に連絡・協議をし、場合によっては、修正前の形に戻した上で改めて検討する。

F 5

現行の「目録情報の基準」に対し、それ以前の版によって作成された書誌レコードについては、次のように扱う。

- 1) 現時点で書誌記述が完結している場合は、それがたとえ現行の「目録情報の基準」と合致していない場合でも、既存の書誌レコードを維持することを原則とする。
- 2) 現時点で書誌記述が完結していない場合、例えばセットもの等で「目録情報の基準」の改訂が刊行の途中にかかり、その前後で異なる記述がなされる可能性があるような場合は、当該書誌レコードは現行の「目録情報の基準」にあった形に修正することを原則とする。

なお、現行の「目録情報の基準」の運用開始（1997年12月1日）以降に作成された書誌レコードについては次の番号より大きい番号が付与されている。

BA33217012

21.1 図書書誌レコード修正 修正事項一覧

ここでは、図書書誌ファイルに登録されたすべての書誌レコードについて、各フィールドごとの具体的な修正事項と、その作業の区分を一覧表に示す。

原則として、和図書／洋図書、子書誌／親書誌のすべてについて一括して記述している。しかし、特定のレコードに限定される場合は、【親書誌】，【洋図書】等の下に記述している。

21.1A [通則]

A1

修正事項には、書誌レコードに対してかかるであろうと予想される修正の内容を列挙してある。
この表に掲載されている以外に何らかの修正事由が出現した場合は、修正の内容をセンターに連絡する。

A2

「発見館修正可」とは、修正すべき事項を発見した館が独自に慎重に修正することが可能である、ということである。

「作成館と協議」とは、修正すべき事項を発見した館が当該書誌の作成館に連絡をとり、修正を行うかどうかを協議する必要がある、ということである。

「所蔵館に連絡」とは、修正を行った場合に、当該書誌に対応する資料の所蔵館に対しても修正の連絡を行う必要がある、ということである。

A3

また、作成館と協議し、修正した結果によっては、センターに対して報告を行わなければならないものがある。特に、書誌レコードの重複が発生した場合はセンターへ報告を行わなければならない。

A4

所蔵館に連絡するとき、~~その館数が多数であり、対応が困難である場合は、~~センターに連絡作業を依頼することができる。~~依頼するかどうかは5館程度を目安に判断する。~~

削除

21. 1 B 【修正事項一覧】

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	発見館 修正可	作成館 と協議	所蔵館 に連絡
GMD	(1) コード表改定に伴う訂正	○		
	(2) 明らかに不正なコードの訂正	○		
	(3) 記録されるべきコードがありながら未記入であるときのデータの追加	○		
SMD	(4) 主たるコード資料種別コードの選択の相違によるコードの修正訂正		○	
	(5) データの削除		○	
YEAR	(1) コード表改定に伴う訂正	○		
	(2) 明らかに不正なコード、データの訂正	○		
CNTRY	(3) 記録されるべきコードがありながら未記入であるときのデータの追加	○		
T T L L	(4) データの修正			
T X T L	子 (4) VOL フィールドの追加に伴うデータの修正訂正 (YEAR, ただし最終巻がない限り刊行終了年は追加できない)	○		
ORGL	子 (5) 目録対象資料が複数言語で記述されている場合のコードの追加	○		
REPRO	子 (6) データの削除 (特に REPRO)		○	
VOL	(1) 次のようなデータの修正			
	子 (1) 新たな巻冊次・部編名の追加	○		
	子 (2) 装丁に関わる特殊な版表示に関わる語句の追加	○		
	子 (3) ISBN の説明語句の追加	○		
	子 (4) 区切り記号の訂正	○		

21. 1 B [修正事項一覧] (続)

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	発見館 修正可	作成館 と協議	所蔵館 に連絡
VOL	(5) (5) VOL フィールドのデータが長すぎる時のデータのVOL フィールドからNOTE フィールドへの移動 (ただし, 出版物理単位を識別するために必要な情報は残すこと) (6) (6) 転記の際の単純な記入ミスに対する 修正 訂正 (4) (7) 書誌単位の取りかたの相違等による個別書誌の統合化 (この場合, 重複書誌レコードの報告が必要) (5) データの削除 (8) (8) 書誌レコードを分割するような場合でのVOLの削除 例: 装丁に関わる特殊な版表示があるときの分割 (9) (9) 書誌単位の変更の結果, 階層として表現するためにVOL フィールドを削除するような場合 (10) (10) 価格に対する説明語句等の記述を削除する場合	○		
ISBN	(1) 空値に対するデータの追加	○		
XISBN	(2) 既述されてあるISBN, ISSNをXISBN, OTHNに 移す 修正移動	○		
ISSN	(最新の値に 修正 訂正するか, 既述のものが間違いであったような場合) (3) XISBNの追加 (4) データの削除	○	○	
PRICE	(1) 空値に対するデータの追加 (2) 最新の情報を基にしたデータの 修正 訂正	○		

21. 1 B 【修正事項一覧】 (続)

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	発見館 修正可	作成館 と協議	所蔵館 に連絡
NBN LCCN	(1) 空値に対するデータの追加	○		
GPON OTHN NDLCN	(2) フィールドの追加 (LCCN, GPON は OTHN に記入)	○		
	(3) 各参照 MARC にあり、流用時そのままにされたデータを 修正 参照 MARC 流用時の不適切データの訂正	○		
	(4) データの削除	○		
TR (タイ トル)	<p>【子書誌】</p> <p>(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正</p> <p>(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正</p> <p>(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する修正訂正</p> <p>(4) 外字、翻字、字体の修正書き換え 例：ニ→◆D——◆への修正書き換え キリル文字の翻字形からキリル文字への修正書き換え (ただし、漢字の字体については、転記の原則に従う方向でのみ修正書き換えを認める)</p> <p>(5) ルビの記入</p> <p>(6) ヨミの追加</p> <p>(6) (7) 明らかに誤りであるときのヨミの修正訂正</p> <p>(7) (8) 分かち書きの修正訂正</p> <p>※ (4)～(7)(8)については、今まで記述されていた形、若しくは TR に採用されなかったものは VT に追加して記録することが望ましい</p> <p>(8) タイトル関連情報、タイトル関連情報のヨミの追加</p> <p>(9) タイトル関連情報の追加</p> <p>(10) タイトル関連情報のヨミの追加</p>	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○	

追加

21. 1 B 【修正事項一覧】 (続)

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	発見館 修正可	作成館 と協議	所蔵館 に連絡
TR (責任 表示)	(11) (13)～(17) 【子書誌】 (13)～(17)と同じ(ただし、ア)は 除く) (12) 終期を予定しないシリーズものに対する、記述の根拠 とした巻より前の巻又は初巻に基づく記述の修正 (18) 終期を予定しないシリーズものにおける、初巻または それに近い巻に基づく記述への訂正 (ただし、訂正前の形についてはVTに記述する)	○	⊖	⊖
	【子書誌】 (1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正 (2) (1)以外の句読点等の記号の訂正 (3) 転記の際の単純な記入ミスに対する修正訂正 (4) 外字、翻字、字体の修正書き換え 例：⇒◆D——◆への修正書き換え キリル文字の翻字形からキリル文字への修正書き換え (ただし、漢字の字体については、転記の原則に従う 方向でのみ修正書き換えを認める) (5) 責任表示の修正 ⇒(5) 書誌内容の変更を伴わない責任表示の追加 ⇄(6) 書誌内容の変更を伴う責任表示の追加 ⇄(7) 責任表示の変更 ⇒(8) 責任表示の削除 (責任表示に何らかの修正が加えられた場合は、ALに ついてはそれに対応した修正を行う。ただし、対象と なる書誌レコードが複数の出版物理単位から成ると き、それが部編名ごとに異なる責任表示を有する場合 は、別書誌レコードを作成する) (6) (9) 並列責任表示の追加 【親書誌】 (1) 責任表示の修正 (ただし、親書誌レコードにおける責任表示の記入は 各参加組織の選択事項である。また、子書誌全体にかか るもの以外は追加してはならない)	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

2 1. 1 B 【修正事項一覧】 (続)

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	発見館 修正可	作成館 と協議	所蔵館 に連絡
PUB (出版地・ 出版者)	(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する 修正 訂正	○		
	(4) 外字, 翻字, 字体の 修正 書き換え 例: ニ→◆D——◆への 修正 書き換え キリル文字の翻字形からキリル文字への 修正 書き換え (ただし, 漢字の字体については, 転記の原則に従う 方向でのみ 修正 書き換えを認める)	○		
	(5) 出版地・頒布地, 出版者・頒布者, 製作地・製作者の 追加 (複数の出版物理単位から成る資料で, 記述の根拠と しなかった巻からの情報を追加してはならない。必 要ならばそれらはNOTE に注記する)		○	
	(6) 出版者の省略形と完全形の書き換え	○		
	(7) 出版地・頒布地の修正			
	(7) (7) 同一国内での出版地・頒布地の 修正 書き換え	⊖	○	
	(8) (8) 互いに異なる国での出版地・頒布地の 修正 書き換え		○	
	(9) (9) (【洋図書】) 目録作成機関の母国に関わる記述を 行う場合の第2出版地・第2出版者の記述	○		
	(10) (10) NOTE フィールドに記述されているその他の出版事 項のPUB フィールドへの転記	⊖	○	
	(11) (11) データ要素の削除		○	○
	【親書誌】			
	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○		
	(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○		
	(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する 修正 訂正	○		
(4) 外字, 翻字, 字体の 修正 書き換え	○			
(5) 出版者の省略形と完全形の書き換え	○			

21. 1 B 【修正事項一覧】 (続)

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	発見館 修正可	作成館 と協議	所蔵館 に連絡
PUB (出版地・ 出版者)	(6) 終期を予定しないシリーズものに対する、記述の根拠 とした巻より前の巻又は初巻に基づく記述の訂正 (7) データ要素の削除 ※ ただし、記述の根拠とした巻に記載されておらず、その 他の巻に記載されていた情報を追加してはならない。必要 ならばそれらはNOTEに注記する	○ ⊖	 ○	⊖
PUB (出版年)	(1) 既に記録されている出版年に対する、その記録が任意で ある著作権取得年の追加 (2) 不確定のデータに対する、記述対象資料中の主情報源以 外のところからのデータ記入 (3) 著作権取得年による記述に対する、資料のその版での初 刷の年への訂正 (4) シリーズ若しくは複数の出版物理単位から成る書誌レ コードに対する資料の刊行終了年の追加 (5) データの削除	○ ○ ⊖ ○	 ○ ○	
PHYS	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正 (2) 転記の際の単純な記入ミスに対する 修正 訂正 (3) 記入されていない前付頁等の記述追加 (4) VOL フィールドの追加に伴う データ 記述の 修正 訂正 (5) 完結した全集・講座・セット物などの巻数の追加 (6) 記入されていないその他の形態細目の追加	○ ○ ○ ○ ○		

21. 1 B 【修正事項一覧】 (続)

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	発見館 修正可	作成館 と協議	所蔵館 に連絡
PHYS	(7) NOTE フィールドに記入記録されている付属資料の物理的事項に関する転記 (8) データ要素の削除	○	○	⊖
VT	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正 (2) (1)以外の句読点等の記号の訂正 (3) 転記の際の単純な記入ミスに対する修正訂正 (4) 外字, 翻字の誤りに対する修正書き換え 例: =→◆D——◆への修正書き換え キリル文字の翻字形をキリル文字になおす修正書き換え (5) ルビの記入 (6) ヨミの追加 (7) 明らかに誤りであるときのヨミの修正訂正 (8) 不正なタイトルの種類コードの訂正 (9) 明らかに誤りであるときの分かち書きの修正訂正 (ただし, 明らかに誤りであるかどうかははっきりしないような場合は, 修正は行わない検索の便を考慮してフィールドを追加して他の可能性のある分かちによるヨミを追加する) (10) フィールドの追加 (11) 重複している VT フィールド記述の調整 ※ 原則として明らかに誤りでない限り, データの削除は行わない	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		
CW	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正 (2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○ ○		

追加

21. 1 B 【修正事項一覧】 (続)

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	発見館 修正可	作成館 と協議	所蔵館 に連絡
CW	<p>(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する修正訂正</p> <p>(4) 外字, 翻字, 字体の修正書き換え 例: ニ→◆D——◆への修正書き換え キリル文字の翻字形をキリル文字になおす修正書き換え (ただし, 漢字の字体については, 転記の原則に従う 方向でのみ修正書き換えを認める)</p> <p>(5) ルビの記入</p> <p>(6) ヨミの追加</p> <p>(6) (7) 明らかに誤りであるときのヨミの修正訂正</p> <p>(7) (8) 分かち書きの修正訂正</p> <p>(8) (9) フィールドの追加</p> <p>(9) (10) NOTE フィールドに記述されている内容注記のCW フィールドへの転記</p> <p>(10) (11) データ要素の一部 (又はすべて) を TR フィールド 若しくは VOL フィールドに転記 (この結果, 書誌の重複が発生した場合にはセン ターにあてて重複書誌レコードの報告を行う)</p> <p>(11) (12) データの削除</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p>	<p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p></p> <p>⊖</p> <p>⊖</p>
NOTE	<p>(1) 資料の特性に関する事項については TR の(1)～(4)に同 じ</p> <p>(2) 初刷の情報源によるデータ修正に伴う, 刷の情報の削除</p> <p>(3) 版の同一性に関わる注記の修正訂正</p> <p>(4) VOL 分割に関わる注記の修正訂正</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p></p> <p></p> <p>○</p> <p></p>	<p></p> <p></p> <p></p> <p></p>

追加

21. 1 B【修正事項一覧】(続)

追加

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	発見館 修正可	作成館 と協議	所蔵館 に連絡
NOTE	<p>(5) 出版物理単位, 集合書誌単位に対する, 記述の根拠としなかつた巻号等についての注記の追加</p> <p>(6) PHYS フィールドへ移動された付属資料の物理的事項に関する注記の削除</p> <p>(6) (7) (1)～(5)(6)以外の書誌的事項や資料の内容に関わる注記の追加</p> <p>(7) (8) (1)～(5)(6)以外の書誌的事項や資料の内容に関わる注記の削除</p>	○ ○ ○	 ○	
PTBL (親書誌 タイトル 等)	<p>(1) 強制リンクによる修正 (ただし, 親書誌の TR の修正が正しいものであるかどうかは慎重に検討することが必要)</p> <p>(2) フィールドの新規追加</p> <p>(3) 親書誌レコードのリンク先の変更 (ただし, 親書誌の重複に伴う付け替えであるときは発見館で修正可)</p> <p>(4) フィールドの削除</p> <p>※ 記述の内容自体については, TR の親書誌の項を参照すること</p> <p>※ PTBL フィールドの構造の種類コードについては各参加館の都合によって自由に書き替えてよい</p>	○	 ○ ○ ○	 ○
PTBL (番号等)	<p>(1) データの新規追加</p> <p>(2) VOL フィールドの追加に伴う書き替え</p> <p>(3) (2)以外の理由によるデータの書き替え</p> <p>(4) データの削除</p>	○ ○	 ○ ○	

21. 1 B 【修正事項一覧】 (続)

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	発見館 修正可	作成館 と協議	所蔵館 に連絡
PTBL (中位の書誌のタイトル等)	(1) データの新規追加 (ただし、責任表示の追加については、それが中位の書誌レベル全体にかかるもののみである)		○	
	(2) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○		
	(3) (2)以外の句読点等の記号の修正訂正	○		
	(4) 転記の際の単純な記入ミスに対する修正訂正	○		
	(5) 外字, 翻字, 字体の修正書き換え 例: ⇒◆D——◆への修正書き換え キリル文字の翻字形をキリル文字になおす修正書き換え (ただし、漢字の字体については、転記の原則に従う方向でのみ修正を認める)	○		
	(6) ルビの記入	○		
	(7) ヨミの追加	○		
	(7) (8) 明らかに誤りであるときのヨミの訂正	○		
	(8) (9) 分かち書きの訂正	○		
	(9) タイトル関連情報、タイトル関連情報のヨミの追加			
	(10) タイトル関連情報の追加	○	○	
	(11) タイトル関連情報のヨミの追加	○		
	(10) (12) 並列タイトル・並列タイトル関連情報・並列責任表示などの追加	○		
	(11) 他のフィールドからのデータの転記			
	(12) (13) TRからのデータの移動		○	○
(13) (14) VOLからのデータの移動		○	○	
(14) (15) データの削除		○	○	
PTBL (中位の書誌の番号等)	(1) データの新規追加	○		
	(2) VOLフィールドの追加に伴う書き換え	○		

追加

21. 1 B 【修正事項一覧】 (続)

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	発見館 修正可	作成館 と協議	所蔵館 に連絡
UTL	(5) 基本記入標目に対する主記入フラグの追加 (6) 典拠レコードのリンク先 標目のリンク先典拠レコードの変更 (ただし、典拠レコードの重複に伴う付け替えであるときは協議の必要はない) (7) フィールド 標目の追加 (8) フィールド 標目の削除 (現在 センター NACSIS-CAT では採用されていない種類の統一タイトル典拠 (例：法律書・条約集・原タイトル等) を削除する場合は、発見館で修正可) (9) 典拠レコードリンクの解消	○ ○ ○	○ ○ ○	
CLS	(1) 異なる分類表に基づく分類標目の追加 (2) 目録対象資料の主題を適切に表現するために必要な重出分類の追加 (3) コード表又は分類表に照らして明らかに誤りである分類の種類コード又は分類標目の 修正 訂正 ※ 明らかに誤りである場合を除いては、原則としてデータ、 フィールド 標目の削除は行ってはならない	○ ○ ○		
SH	(1) 異なる件名標目表に基づく件名標目の追加 (2) 目録対象資料の主題を適切に表現するために必要な件名標目の追加 (3) コード表又は件名標目表に照らして明らかに誤りである件名標目表の種類コード又は件名標目の 修正 訂正	○ ○ ○		

21. 1 B 【修正事項一覧】 (続)

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	発見館 修正可	作成館 と協議	所蔵館 に連絡
SH	(4) 更新された件名標目の新しい標目形への 修正 訂正 ※ 明らかに誤りである場合を除いては、原則としてデータ、 フィールド 標目の削除は行ってはならない	○		

F 2. 1 (続)

ウ) 記述の基盤についての注記

最初に刊行された資料以外の出版物理単位（巻・冊）によって書誌レコードを作成した場合に、記述の基盤とした巻・冊について注記する。

NOTE:Description based on v. 2

初刷以外によって書誌レコードを作成した場合に、記述の基盤とした刷について必要に応じて注記する。

NOTE:Description based on 1965 printing

NOTE:Description based on 2nd printing, 1971

ただし、初刷に基づいて書誌レコードを修正したとき、または基盤とした刷が初刷と同一であると確認できたときは削除する。

追加

エ) 中位の集合書誌単位に対応する版表示

オ) 複数の出版物理単位から成る資料における、責任表示、出版者の変更に関する注記

TR:Collected works / Karl Marx, Frederick Engels

NOTE:Translator of v.30: Ben Fowkes, of v.32: Emile Burns

カ) 類似書誌レコードとの相違に関する注記

NOTE:Differs from <BA60608191> in publication year

NOTE:Created due to the change of physical description

キ) 同一書誌レコードとして扱う資料間に見られる相違に関する注記

(1) 初刷のバリエーション

(2) 初刷以外の資料による情報

NOTE:Some copies have different pagination: 687 p.

NOTE:Reprinted with corrections, 1961

追加

F 2. 2

AACR 2 の 1. 7 B で示されているもののうち、次のものについては、AACR 2 とは別の取扱いをする。

ア) 次に示す項目について、検索上有益なものは、VTフィールドに適切なコードを付して記録する。
なお、「OH」を付して記録した場合は、必ず情報源を注記する。

- 1. 7 B 4 (別の形のタイトル)
- 1. 7 B 5 (並列タイトルとタイトル関連情報)
- 1. 7 B 1 2 (シリーズ)

F 2. 2 (続)

イ) 1. 7 B 1 8 (内容)のうち、著作単位のタイトル及び責任表示に該当するものについては、CWフィールドに記録する。

4. 2. 7 G [フィールドの繰り返し]

本マニュアル及びAACR 2に定める注記(の種類)ごとにNOTEフィールドを繰り返して記録する。ただし、フィールドの繰り返し制限を超えてしまう場合は、同種の注記をグループ化し、一つのNOTEフィールドの中に記録することができる。

〔関連項目〕

- 4. 1. 11 VOL
- 4. 2. 1 TR
- 4. 2. 5 VT
- 4. 2. 6 CW

